

活動報告書

グループ名 : 高校生アフリカ昔話・横浜昔話実行委員会

提案名 : 「アフリカ昔話」「横浜昔話」の朗読ショー

助成を受けて行った活動の時期と内容 :

【高校生アフリカ7つの昔話 ロードクショ】 平成25年5月25日（土）

横浜で開催された「第5回アフリカ開発会議」の市民レベルでの連携イベントとして、参加7か国の昔話を高校生が制作した絵とともに朗読するイベントを企画実施した。市民に対して会議開催の意義と各国の昔話に込められた平和に関するメッセージを伝えた。国際協力機構（JICA横浜）や各国大使館の協力により、衣装や各国クイズの景品を充実させてイベントを盛り上げた。クイーンズサークルで開催し、事前のマスコミ等の協力もあった影響で、当日は200人以上の集客があった。



【英語で昔話】

日本の昔話と横浜の偉人伝を、高校生が制作した絵とともに英語で外国人に朗読するイベントを企画実施した。昨年10月から絵の制作、ストーリーの英訳、講師を招いての英語の朗読連続封を経て、今年3月より実施に至る。昔話に出てくる「食」と関連させ、おにぎり、いなり、串団子を食しながら日本の精神と文化を伝えることを趣旨とした。現在11か国25人の外国人親子が参加している。横浜市国際交流協会、ワールドポーターズなど4月以降も継続することになっている。



エリアマネジメントにおける効果：アフリカイベントに関して



↑ タウンニュース

神奈川新聞→

- ① マスコミ活用によるエリアの広報

読売新聞、神奈川新聞、タウンニュース、NHKラジオ等複数の取材を受けたことにより、エリアの広報につながった。

② 集客 横浜総合高校近隣の小学校、連携した横浜北部地域の小中学校への広報の結果、200名以上の集客があった。

③ 市民への文化発信 市民に対する異文化理解を発信する場となった。また、昔話に含まれる平和や思いやりなどの古のメッセージを市民に提供する場となった。

④ 次世代育成への貢献 クイーンズサークルという大きな舞台での実践は集客面など参加した高校生に楽しい体験をさせることができた。この経験の積み重ねにより、横浜への意識が高まり、次世代の横浜を支える人材が生まれてくる。今回のイベントは横浜人材育成における貴重な体験の場となった。

今後の活動展望 :

- ① みなとみらい地区で開催される大型イベントに便乗した企画を実践する。
今後開催される国際会議、大型イベントに関連したイベントを企画し、タイアップしながら参加していきたい。
 - ② 観光の素材として、絵や朗読技術の質的向上をめざす。
昔話だけでなく、横浜開港時から現在に至るまでのエピソードもジャンルに加えて、他県からの観光客、海外からの観光客にも対応できる実践をする。そのために絵や英語も含めての朗読技術の向上に努めたい。
 - ③ 外国人、観光客も含めた災害時対策への貢献をめざす。
横浜の特性を理解反映した、災害時の避難所における高校生の貢献策を考え、既存の企画と合わせて提案、実践していきたい。
 - ④ 横浜の次世代人財育成をおこなう。
横浜市立高校の役割を意識した、将来の横浜に貢献できる人材育成を行う。その手段として横浜にかかわる様々なイベントに企画参加していく。

収支決算書

団体名 高校生アフリカ昔話 横浜昔話実行委員会

1 収入

項目	金額	説明（負担者及び負担方法等）
交付された助成金（A）	500000	
自己資金	198347	
合計	698347	

2 支出（助成金対象経費分）

項目	数量 (単位)	単価	金額	説明
会場費・会場関連費			325,780	会場使用料、関連諸経費
印刷費・送料			62,450	ポスター、チラシ印刷発送費
機材レンタル費 運送費			27,780	プロジェクトレンタル、運送費
交通費			133,570	14日間154名
製作費・講師料			148,767	絵、朗読指導 英訳、英会話指導
合計（B）			698,347	

3 決算後の助成金の額

(1) (A) ≤ (B) × 4 / 5 の場合	(A) の額	¥ 500000 . -
(2) (A) > (B) × 4 / 5 の場合	(B) × 4 / 5 の額	¥ . -